平成24年度

# 「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品集

**主　催**

富　山　県
富山県教育委員会
富山県中学校文化連盟
富山県高等学校文化連盟

平成25年1月発行
平成２４年度
「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品集

編集・発行／　富山県教育委員会生涯学習・文化財室
全国高等学校総合文化祭推進班
〒930-8501 富山市新総曲輪 1-7
TEL：076-444-8908　FAX：076-444-4434
ホームページ http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/3009/index.html

# 発刊に寄せて

富山県知事　石井　隆一

グローバル化が進展するなか、これからの富山県を担う若い皆さんが、根なし草にならないよう、ふるさと富山県に愛着や誇りをもち、日本や世界を舞台に活躍する人材になっていただくため、県ではふるさと教育の振興に積極的に取り組んでいます。

その一環として、ふるさと富山の自然、歴史、文化、人々の生活を描写した富山ゆかりの文学に親しみ、学ぶことで、様々な刺激を受けていただくことを期待し、このコンクールを実施しました。応募数も年々増え、毎年、若者らしいみずみずしい感性で表現された素晴らしい作品が多数出品されており大変うれしく思っております。

また、昨年七月には、富山県ゆかりの文学を、特に若い世代の方々をはじめ、多くの県民の皆様に親しみ、学んでいただくとともに、先人の考え方や夢、希望、情熱、志を発信する拠点として、「高志の国文学館」が開館しました。

この文学館では、「劔岳〈点の記〉」「螢川」「万葉集」等の純文学のほか、漫画、アニメ、映画など、このコンクールの応募作品題材も含め、本県ゆかりの文学作品を幅広く紹介し、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができる施設となっています。おかげさまで、昨年十二月までの半年あまりで九万人もの方が文学館を訪れ、連日賑わっており、大変ありがたく思っています。

ぜひ、多くの中高校生の皆さんにもご来館いただき、富山の自然や風土の中で生まれた様々な文学作品にふれて欲しいと思います。

終わりに、この冊子をきっかけとして、さらに「ふるさと文学」に親しみ、ふるさとの良さを知り、自らのアイデンティティを高めることで、国内外で活躍する人材として飛躍してくれることを期待しています。

富山県教育委員会　教育長　寺林　敏

四季折々の美しく豊かな富山の自然や風土の中で生まれた文学作品を通じて、郷土の先人の心や優れた知恵にふれる機会とするこのコンクールは、平成二十二年度から始まり今年度で三回目となります。今年度は昨年度より約二百点も多い、千五百十点の文芸や美術、写真の応募がありました。

昨年八月に富山県で開催された「第三十六回全国高等学校総合文化祭」文芸部門では、高志の国文学館で、参加者の各都道府県ゆかりの「ふるさと文学」紹介の発表と展示が行われました。若い皆さんが、それぞれの郷土に根ざした「ふるさと文学」を学ぶことは、ふるさとへの誇りを一層高める契機となることはもちろん、変化する時代を生きるためのよりどころとなる大切なことと思います。高志の国文学館には、ふるさと文学に関する魅力ある展示や豊富な資料がそろえられていますので、これらを活用し、富山ゆかりの作品の豊かな情景や深い心情に触れ、感動を味わってください。

この作品集には、中高校生がふるさと文学への感動をもとに、新たな創作に取り組んだ、若者らしい感性にあふれた作品がまとめられています。どうか、仲間の作品にふれてください。

皆さんに今後ともふるさと富山の本に親しみ、読書活動を深め、自分とふるさと、そしてこれからの人生について考えるきっかけとしていただくことを心から願っています。

**入選作品集の利用にあたって**

- 入選作品の原作紹介のために、初出の作品に読書案内のコラムがあります。
- 文芸部門については、冊子の構成上、ジャンルごとにまとめて掲載しました。
- 美術部門・写真部門は入選順に掲載しました。
- 入選作品集は、「富山県　生涯学習・文化財室」のホームページからダウンロードすることができます。



# 文芸部門

## 知事賞

『納棺夫日記』を読んで

### みぞれ

魚津高等学校　一年　上原　美穂

生でもなく死でもない　植物状態を生きる
覚者でもなく普通人でもない　詩人を生きる

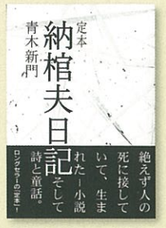
あいまいな存在で生きる

死に携わって生きる
死人の声を聞いて生きる
生きながら死人と向き合う

納棺夫を生きる

雪でもなく雨でもない　みぞれを生きる

**この一冊**




**納棺夫日記**

青木　新門／著　桂書房

死者の体を清め棺に納める仕事に就いた著者が、死にゆく人の穏やかな顔や感謝の言葉に、人間の命の本質を悟っていく。著者の静かなる声が心に残るロングセラーとなった。詩と童話を付した定本。

文芸部門・散文　金賞

『男たちの大和』を読んで

# 終戦六十七年目をむかえて

魚津高等学校　一年　竹本　奈々子

八月十五日。日本は太平洋戦争終戦から六十七年をむかえた。その太平洋戦争の様子を鮮明に描いているのが、この「男たちの大和」である。私はこの本を読んで、実際に戦時中を生き抜いたような、そんな気分になった。なぜなら、戦争の描写がひどく丁寧でリアルなのである。

今まで様々な場面で戦争についての映像を見てきた。その映像以上に私はこの本に引き込まれた。リアルな描写はもちろんだが、この本には当時の世相も描かれている。私はその場面に出てくる人々に感情移入してしまったのかもしれない。

この物語の主人公神尾克己は十五歳にして戦艦大和の乗組員になった特別年少兵である。大和で生活する男達には上陸といって何度か家族や恋人に会いにいける機会がある。その際に出てくるのが、神尾の母スエと幼なじみ妙子である。私はこの妙子の健気な性格がとても好きだ。その妙子と神尾の場面で非常にせつない場面がある。それは最後の上陸の時、病室での場面だ。あんなに元気で明るかった妙子が、この時は包帯だらけの姿でベッドに横たわっている。妙子は明るい微笑とは裏腹な弱々しい声で、「カッチャンを一人残して死ぬのはいや！」と言った。私はこの場面を読んで非常に胸がつまった。この一週間後に妙子は命を落としてしまう。神尾はあたりかまわず号泣してしまう。私には神尾の気持ちがひしひしと伝わってきた。この本には当時の世相こそ描かれているが、大和船以外の世間での戦争の描写は極めて少ない。しかし私はこの場面で世間での戦争の悲惨さを痛いくらいに感じることができた。死というのは突然だ。この本ではたくさんの人が命を落とす。爆弾や水死など原因は様々だが、その事実はほとんど一、二行でさらっと書かれていることがこの本は多い。これは突然に人が死に、またその死の悲しみにひたる余裕がない時代であった事を表現しているのではないかと私は考える。そんな中で鮮明に描かれているのは神尾の戦友「西哲也」の死である。なぜ西哲也の死だけがこんな何ページにもわたって描かれているのか。この死は神尾にとって一番辛いものではないかと思う。西哲也は神尾の目の前で亡くなった。神尾が手を離したことで亡くなってしまった。この西哲也の死こそ太平洋戦争を象徴しているのかもしれない。

この本を読み終わった時に思ったのは「戦争はだめだ」「繰り返してはいけない」とかではない。もちろん戦争はだめである。それはこの本を読む前から心に思っていたことだ。私がこの本を読んで思ったのはこの戦争を忘れてはいけないということだ。七十五歳になった神尾の「あの日あの時の地獄と、死んでいった者たちの思いとをこの世に生きて語り継ぐことだったのですね…やっと生き残った意味が分かりました」という言葉にもある通り、戦争が起きた時代を知らない私達がこのことを知って忘れないことが大事だと思った。

この作文の冒頭にも書いた通り、私は今まで戦争に関する学習をすることが少なからずあった。この本を読む前まで社会の時間に見たビデオである。私はあまりの残忍さにそのビデオを見ていられなくなった。最終的には目をふさいでしまった。この本を読んで本当に後悔している。この国に住む日本人として過去に起こった出来事をしっかりと心に刻むべきだと思った。

この「男たちの大和」は戦争の悲惨さと同時に、今の日本が本当に平和であることも教えてくれる。この平和な時代に私達は一体何をするべきなのか。語り継ぐことは出来ないかもしれない。人に伝えることも難しいかもしれない。だが私は忘れないだろう。もう二度とあんな戦争が起きないよう心から願う。

この一冊

**男たちの大和**

辺見　じゅん／著　ハルキ文庫

戦況が悪化した昭和二十年四月六日、三・二三三名の男たちを乗せ、沖縄への特攻に出撃した「大和」の過酷な戦いと男たちの人生を、丹念に、生々しい迫力をもって描いた鎮魂の書。新田次郎文学賞受賞作。



文芸部門・散文　銀賞

『万葉集　大伴家持
（立山に降り置ける雪を常夏に　見れども飽かず神からならし　より）』を読んで

# 私のマイブーム

富山市立堀川中学校　二年　緒方　結花

私のマイブームは空の写真を撮ることです。いつの時間帯でも空を見上げると、ホッとします。昨年の夏、父の転勤で富山に越してきました。数回引越をしてきましたが、どこの空も大好きです。

富山の空を見上げて一年。毎日空を見上げていた私に、見上げるものがもう一つ増えました。

立山連峰です。春・夏・秋・冬と山の姿がかわっていきました。以前は山を見ることがなかったので、昨年の夏は、山に囲まれていることに驚きました。秋、少し色が濃くなりました。冬、スッと晴れた中、白く高く雄大にそびえたつ立山連峰に、なぜか目が離せなくなりました。今日の立山はどんなだろう。今日は見えるかな。きれいに見えた時には、その日一日いいことがありそうな気さえしました。

天平十九年に大伴家持が

「立山に降り置ける雪を常夏に　見れども飽きず　神からならし」

と、詠んでいます。

きっと立山は、富山に住む人々にとって、昔から何か特別な存在であるようです。それは、今もかわってないのではないでしょうか。

私が以前住んでいた所は、東日本大震災で液状化の被害がでました。住んでいた家は傾き、ライフラインも約一ヵ月程、思うようにならない日々が続きました。

震災が理由の引越ではありませんでしたが、転校してきた時、初めて会った先生方が、

「大変でしたね。でも、富山は立山連峰があるから大丈夫ですよ。」と、おっしゃって下さいました。

近所の方へご挨拶にいったときも、

「富山は大きな天災はないから。立山があるからね。」と、どの方も

「立山があるから大丈夫。」と、口をそろえておっしゃいました。

すれちがう挨拶がわりに、

「今日の立山は見事だね」と、声をかけられることもあります。

遠い昔より、立山は人々を守り、富山の人々は、感謝と敬意の念をもってきたのでしょう。

私もなぜか毎日、立山を見上げるうちに「立山があるから大丈夫。」と思うようになりました。神の山だと思うのも、もっともだと思います。

毎日姿をかえながら、そしてかわらずに数十年、数百年。ずっとずっと立山連峰が、富山の人々を守り、また守られ続けていくのでしょう。

今日も立山は、私をホッとさせてくれます。

今、私は、空と立山が大好きです。

この一冊

**春の苑紅にほふ はじめての越中万葉**

高岡市万葉歴史館・文／佐竹　美保・絵
射水市大島絵本館・監修／岩崎書店

万葉集の編者でもある大歌人・大伴家持が、越中国に赴任したときの様子を彼の作る和歌を要所要所にはさみながら美しい絵本として描かれています。

文芸部門・散文　銅賞

『万葉集』を読んで

# 万代まで伝わる書

富山高等学校　一年　森田　晴香

高志の国文学館へ行き、「大伴家持と越中万葉」―風土とこだまする家持の心―という展示を見てきた。正直言うと私は万葉集というものに全く興味がなかった。高志の国文学館に行こうと思ったのも、ただ単に夏休みの宿題を終わらせるためという目的でしかなかった。しかし、実際に行ってみると意外にもおもしろかった。

高志の国文学館には、あらゆる家持の歌が展示してあった。その中でも私が特に気に入ったものは、命に関して詠まれている歌である。

かからむと　かねて知りせば　越の海の　荒磯の波も　見せましものを

（こうなろうと前から知っていれば、越の国の海べの、荒磯の波も見せたかったものを。）

この歌は、家持が越中に赴任してまもなく、弟の書持が亡くなったときに詠まれたそうだ。書持は、草木を愛する心やさしい人だったようで、家持も亡き弟にやさしい心遣いをしている。

私はこの歌を読んだとき、家持の心の強さをとても感じた。

愛する家族の死を知ったとき、たいていの人はひたすら泣き悲しんだり、あるいは何かに八つ当たりをして怒り狂ってしまったりするのではないかと思う。もし私の父、母、兄…大切な人が死んでしまったら、きっと私は泣くことしかできないと思う。

しかし、家持は違った。家持は、あれをしてやりたかった、これをしてやりたかった、というように、書持が亡くなってもなお書持を気遣い、寄り添っているのである。大切な人の死に対して、このような感傷的な歌を詠むことができる家持は、単純な表現ではあるが、すごいと思った。

そして、そこには家持が経験した身近な人々の死が関係しているように感じる。家持が経験した身近な人々の死の始まりは、父・旅人の死にさかのぼるらしい。それから七年後に、家持の妻「妾」を亡くしてしまう。その五年後、安積皇子の死に遭遇する。さらに三年後、越中で弟・書持の死を知るのである。

このように家持は生涯の間で様々な人の死を経験している。これらの経験が家持を精神的に強くさせ、先程のような、落ち着いて死を悼む歌が詠めるように成長していったのではないかと思う。

「万葉集」は一三〇〇年もの長い間読み継がれてきたそうだ。そこには、貴族・皇族の歌も、名もない一般の人々の歌も区別なく混ざっておさめられている。このようなものはとても珍しいらしい。

とても昔のものだから、当然身分の違いははっきりとしていたはずだ。そんな中でも歌を楽しむために、色々な歌がおさめられているということに感動した。どうして今まで興味すら持たなかったのだろうかと不思議になるほどだ。

現在では、「万代まで伝わる書」ということで「万葉集」という名前がつけられたという説が有力らしい。

私は、これからもずっとこの歌たちが伝わっていってほしいと思った。そして、もっと多くの人に、「万代まで伝わる書」の素晴らしさに触れてほしいと思う。



文芸部門・散文　銅賞

『ノーベル化学賞「田中耕一さん」の研究』を読んで

# 富山県から提唱する科学の平和利用

雄峰高等学校　三年　福井　遼

富山県ゆかりのノーベル賞受賞者が二人いる。化学賞受賞の田中耕一氏と医学・生理学賞受賞の利根川進氏だ。たんぱく質分子などの分析を可能にしたこと、抗体を生成する原理の解明。どちらも生命に関わる研究だ。

ノーベルの発明したダイナマイトは工事・開発を容易にし、人類の発展の一助となった。同時にその威力は軍事に利用され、多くの命を奪った。晩年、ノーベルは人類の平和と発展のためにノーベル賞を設立することとなる。

インターネット、原子力、電子レンジに合成繊維や液晶ディスプレイ。そしてダイナマイト。戦争の副産物と軍事利用。私達の周りには殺戮の科学、技術が蔓延（はびこ）っている。百年以上経っても、ノーベルの理想は叶っていない。発展と殺戮を切り離せる日は来るのだろうか。

ノーベルの理想を継承しているノーベル賞と、受賞者がいる限り、いつか発展と殺戮を切り離せる「理想」の日が来る。ノーベルがダイナマイトを発明する際、「人類の発展」だけが視野にあった。それでも軍事に利用されてしまう。ダイナマイトには破壊力という軍に魅入られる要素があったからだ。田中氏の研究はどうだろうか。軍が利用しても負の発展はない。生命に関わる、延いては「平和的利用でしか発展を見出せない」研究なのだ。こういった研究をした田中氏のような人こそ理想を現実に近づけた名誉ある科学者だと私は考える。

このような崇高な目標を掲げる人は世界中にいる。「地球的責任のための技術者、科学者国際ネットワーク」略称ＩＮＥＳ。ＩＮＥＳというと、ＩＡＥＡらが策定した国際原子力事象評価尺度の知名度の方が高いであろう。現に私も「平和利用」を考えるまで知らなかった。評価尺度を気にして、世界的な課題に取り組んでいる人々の声に耳を傾けなかったことを情けなく思う。しかし政府も多くの人々も、私と同じように耳を傾けていないから科学は今もって尚、不幸な扱われ方をするのだ。

古来より、自然との共存を続けてきた富山県。冬は豪雪、夏はフェーン現象で暑く、四方は山と海。過酷さと、美しさを若い時から身に受けて育ってきた私達は「まじめでコツコツ」「粘り強い」という性質を根強く持っている。売薬の分野でもその性質を生かしてきた。若い時から自然と触れあったからだろうか、「生命」を大切にする考え方が根本にある。他では受け入れられにくいような理想も、ここ富山の地では皆が受けいれられる可能性が確かにある。田中氏の偉業を、「ノーベル賞受賞」などでは終わらせてはならない。人類が見出した希望でもある偉業を、「科学の平和利用」を、私達は富山から日本に、世界に伝播させていかなければならない。

後輩である私達の義務は科学の平和利用を継承し、そして伝えていくことだろう。富山県民が、日本国民が、田中氏の「平和利用」を誇りにすることで世界に「平和利用」の理想を再度提唱することができるはずだ。その先に、「理想」が現実となる日が必ずあると私は信じている。

## この一冊

**ノーベル化学賞「田中耕一さん」の研究**

フレア情報研究会／著　第三書館

二〇〇二年、大学教授でもない、博士号も持たないサラリーマン研究者田中耕一さんがいかにして最高峰のノーベル賞を獲得したのかを、その人間像を含めて綴ったドキュメント。

文芸部門・詩　銀賞

『螢川』を読んで

## 光の想い

富山市立堀川中学校　三年　井波　晴香

空も、風も、道もすっかり夜の色に染まり、
月の影が水面にこぼれ落ちた頃
　　突然、
闇をさえぎり火のように舞い上がる、大きな
光の塊が見えました
その光景は私の足を、手を、体をとまらせ、
心を動かしました
無数の光が、一つの輝きになって、静かに流
れゆく川を照らしていました
この光が、いずれ空にとけ込んでしまっても
　その光が、
塊の一つだったことには変わりなくて
この光を、もう二度と思い出せなくなっても
　その光が、
私の一部だったことにも変わりなくて

暗闇にともる明かりはどうしてこんなにも
哀しくて、美しいのでしょうか
不思議な夜ですね。

この一冊

**螢川・泥の河**

宮本　輝／著　新潮文庫刊

昭和三十年代の富山県を舞台に、父親の事業がうまくいかない中での、少年の淡い恋の目ざめと人間的成長を描いています。雪国ゆえの豊かな水の描写や、春の喜びとともに蛍の乱舞する情景は圧巻。芥川賞を受賞した名作です。

文芸部門・詩　銀賞

『ルメイ・最後の空襲』を読んで

## たしかなもの

富山高等学校　一年　高橋　侑花

声にならない歴史があった
絶え間なく降り注ぐ恐怖
人でない　人の姿を見る

火は人の行く手を阻み
母と妹は冷たく　焼ける
少年は　傷ついた　引き裂かれた
そして　奪われた――

雪げぬ心　癒えることはない
焦がれた体　忘れることはない
血を血で清うことはできない

希望の空　緑の夏がある今
私には見えない　きっとあなたにも見えない
でも確かに　間違いなく
そこにあった――

この一冊

**ルメイ・最後の空襲**

中山　伊佐男／著　桂書房

富山空襲で母と妹を失った当時中学生の著者が、膨大な米軍作戦任務報告書を読み解き、無差別爆撃の全容を明らかにした一冊。



文芸部門・詩　銅賞

『劔岳〈点の記〉』を読んで

## 挑み

魚津高等学校　一年　小林　萌葉

自然の美麗
　山の頂きから見える
　眼下の夕日
　雲の絨毯

自然の脅威
　断崖絶壁
　道幅のない尾根
　吹雪や豪雨
　　死と隣り合わせ
　　命は危く　身もすくむ

自然は挑もうとする者に試練を与える

大切な妻
　笑顔
　心落ちつく

山を愛する仲間
　敬意を表し
　称えあう

　命を懸けた魂の記録

心を繋ぐ　劔岳

この一冊

**劔岳〈点の記〉**

新田　次郎／著　文春文庫刊

日本地図を完成させるため、不可能と言われた初登頂と山岳測量に取り組んだ主人公らの不屈の努力、山を愛する人々の友情を描きます。山頂で発見された千年前の錫杖が解けない謎として心に残る名作です。映画化されました。

文芸部門・詩　銅賞

『くろべのツンコぎつね』を読んで

## 寒い日のこと

魚津高等学校　一年　谷山　ゆり香

ふかい　ふかい　雪の上
足あと　ふたつ　雪の上

追うもの
追われるもの

それが運命（さだめ）だったのか

ある時
追うものは　追われるものを　捕える

それが運命（さだめ）だったのか

共に暮らし
両者は　信頼の糸で　つながる

いつしか

追うものは「親」に
追われるものは「子」に

雪をも溶かす　深い愛情が
寒い夜に　生まれる

この一冊

**くろべのツンコぎつね**

大割　輝明／著　小峰書店

狩人のせいさくが子もちぎつねを撃ってしまいます。つれてかえった子ぎつねとの暮らしと、心の葛藤を描いた絵本。

文芸部門・詩　銅賞

『劔岳〈点の記〉』を読んで

## 試練の山

富山高等学校　一年　碓井　美月

高く　鋭く　そびえたち
今日も皆を試している

雪に覆われる白い姿も
太陽に照らされ青い姿も
夕日に照らされ赤い姿も

どれもこれも美しい

「剣岳」その名のとおり
鋭く　荒々しい岩肌は
今日も皆を試す

その試練を通り抜けた者だけが
本当の「剣岳」を知っている

私は未だ　知らない

文芸部門・短歌　金賞

『螢川』を読んで

## 富山今昔

富山大学人間発達科学部附属中学校　二年　八木　仁志

いたち川
　蛍飛交う青い夜
目の裏焼きつく
　生命（いのち）の神秘

文芸部門・短歌　銀賞

『万葉集』を読んで

## いにしえの舟唄

高岡市立伏木中学校　二年　上勢　紗矢子

はるかなる
　時をはこびて射水川
現在（いま）　我も聞く
　いにしえの舟唄（うた）



文芸部門・短歌　銅賞

『ホタルイカの素顔』を読んで

## 富山名物

富山高等学校　一年　高倉　直哉

漆黒の
　海で光るは　青の群れ
　春を告げるは　海の螢か

この一冊

**ホタルイカの素顔**

奥谷　喬司／著　東海大学出版会

ホタルイカの日々の生活や一生、その発光する生体の中で起きているさまざまな現象の詳細について、形態学、生活史、発光生化学、視覚生理学、分類学等々の立場から描かれています。

文芸部門・短歌　銅賞

『螢川』を読んで

## 螢川

富山高等学校　一年　木原　美紗樹

舞い上がる
　螢の川に映るのは
　　無数の光と
　　我が恋心

文芸部門・俳句　銀賞

『螢川』を読んで

## 妖光

富山高等学校　一年　宮田　彬恵

闇を舞う
　輝く妖光
　　命の灯

文芸部門・俳句　銀賞

『ダモイ遥かに』を読んで

## つる

魚津高等学校　一年　細川　七瀬

ダモイへと
　希望託した
　　つるの群れ

この一冊

**ダモイ遥かに**

辺見　じゅん／著　メディアパル

シベリア収容所に抑留され強制労働させられた七十万余の旧日本軍兵士達。零下数十度に及ぶ過酷な環境。多くの人が次々に亡くなる中で、希望を捨てず助け合った仲間たちの物語。

## 文芸部門・俳句　銅賞

『万葉集』を読んで
**恋をする家持**

高岡市立伏木中学校　一年　浜谷　日和

恋をする
家持みつめ
雨晴

## 文芸部門・俳句　銅賞

『ルメイ・最後の空襲』を読んで
**大空襲**

魚津高等学校　一年　近藤　雄真

殺戮と
破壊の間で咲く
友の花

## 文芸部門・俳句　銅賞

『おおかみこどもの雨と雪』を読んで
**おおかみこどもの雨と雪**

富山市立堀川中学校　一年　小川　凛久

雪解けに
咲く花を見て
母想う

### この一冊

**おおかみこどもの雨と雪**
細田　守／著　角川文庫

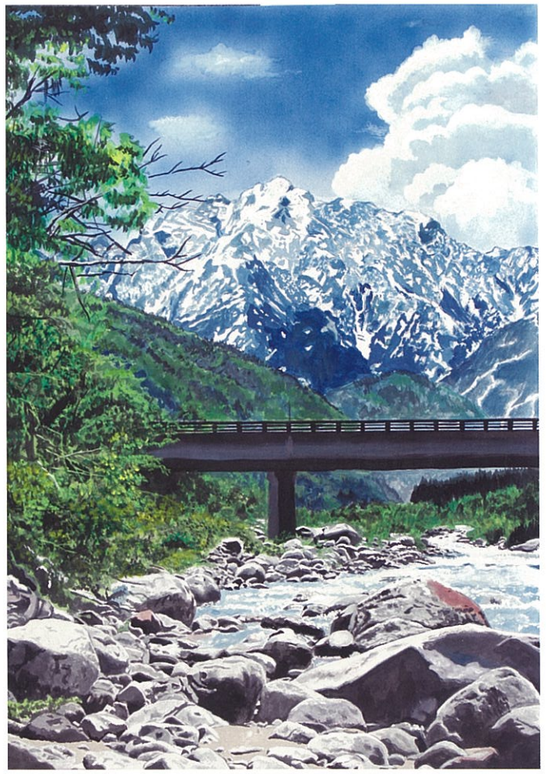
大学生の花は、"おおかみおとこ"と恋をし、"雪"と"雨"の姉弟が生まれます。都会の片隅でひっそりと暮らす四人ですが、"おおかみおとこ"の死を機に、田舎町に移り住みます。映画原作にして細田守監督初の小説。



## 美術部門

美術部門　知事賞
**「絶体絶命」堀　圭太**（小杉高等学校　2年）
＜劔岳〈点の記〉＞　54.0×38.0

【凡例】部門名
題名／名前（学校名・学年）
＜　＞は原作　サイズ（タテ×ヨコ）cm



美術部門　金賞
「剣岳」由水　誠一（富山高等学校　２年）
＜山案内人　宇治長次郎＞　５４．０×３８．０

**この一冊**

**山案内人　宇治長次郎**

五十嶋　一晃／著　桂書房

明治四十年、柴崎測量官一行に参加し、大正・昭和にかけて冠松次郎・田部重治らを案内した、黒部川渓谷歩きの天才の評伝。

美術部門　銀賞
「魚津埋没林」竹田　彩香（富山北部高等学校　１年）
＜風鳥＞　３８．０×５４．０

**この一冊**

**風鳥**

清水　邦夫／著　文藝春秋刊

「月潟鎌を買いにいく旅」、「風鳥」、「魚津埋没林」の三篇の小説を収録。三作とも自伝色の濃い作品。「魚津埋没林」は三度しか会っていない伯母との出来事が綴られています。



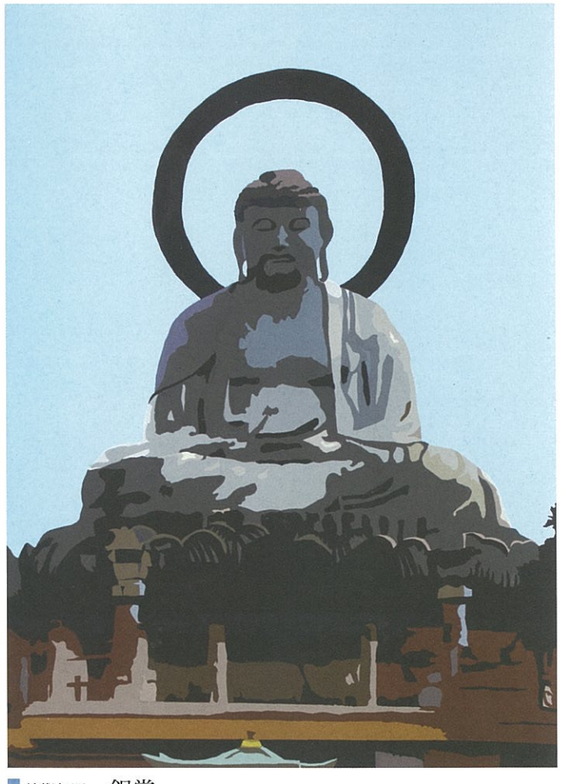
**この一本**

**映画「ＲＡＩＬＷＡＹＳ　愛を伝えられない大人たちへ」**

２０１１「ＲＡＩＬＷＡＹＳ２」制作委員会

雄大な北アルプスの立山連峰を望む富山地方鉄道を舞台に、夫婦の愛と絆を描いた映画。

美術部門　銀賞
「包み込む立山」廣田　紬（富山北部高等学校　１年）
＜RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ＞　３８．０×５４．０



美術部門　銀賞
「高岡の大仏」木村　夏希（富山北部高等学校　１年）
＜谷間の女たち＞　５４．０×３８．０

**この一冊**

**谷間の女たち**

森山　啓／著　新潮社刊

八十五年の茨道を経た著者が、自らの生涯をふり返り、肉親の悲劇、運命的な恋、北陸の厳しい風土に生きる女たちとの交流を描いた青春自伝小説。

美術部門　銅賞
「夜明け前の立山」毛利　優花（富山北部高等学校　1年）
＜劔岳〈点の記〉＞　２７．０×３９．０

美術部門　銅賞
「せりこみ蝶六」石川　莉夏子（富山北部高等学校　1年）
＜認知症の「こころ」を生かす明るい介護＞　３８．０×５４．０

**この一冊**

**認知症の「こころ」を生かす明るい介護**

高草木　銈子／著　文芸社

迷いは多いが喜びも多い介護の日々から生まれたアドバイスが満載。実体験を通しての「介護おもしろエピソード」を交え、気持ちが楽になる介護のコツを伝授しています。

美術部門　銅賞
「おわら風の盆」前田　健登（富山北部高等学校　1年）
＜風の盆幻想＞　２７．０×３９．０

**この一冊**

**風の盆幻想**

内田　康夫／著　幻冬舎

「風の盆」祭りの直前、老舗旅館の若旦那が謎の死を遂げた。このおわらをモチーフにした、浅見光彦シリーズの旅情ミステリーです。

美術部門　銅賞
「光る夏」中越　葉月（小杉高等学校　2年）
＜とべないホタル＞　５４．０×３８．０

**この一冊**

**とべないホタル**

小沢　昭巳／著　ハート出版

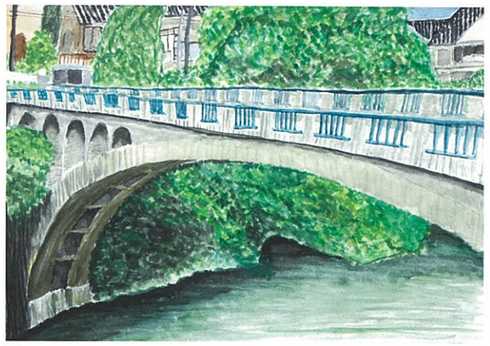
羽が曲がってとべないホタルが仲間たちに助けられ、新しい光を放つ童話です。富山の教員であった作者が、子どもたちに託した願いから生まれた物語は、全国の人々に共感され、感動を呼びました。アニメ化されました。

美術部門　銅賞
「かわらないおいしさ」江連　秋（富山北部高等学校　1年）
＜越中讃歌＞　54.0×38.0

**この一冊**

**越中讃歌**
北日本新聞社
山と水がはぐくんだ土地、越中富山ゆかりの文化人が、愛してやまない、ひと・町・自然・味・くらし・歴史を語る珠玉のエッセイ集。

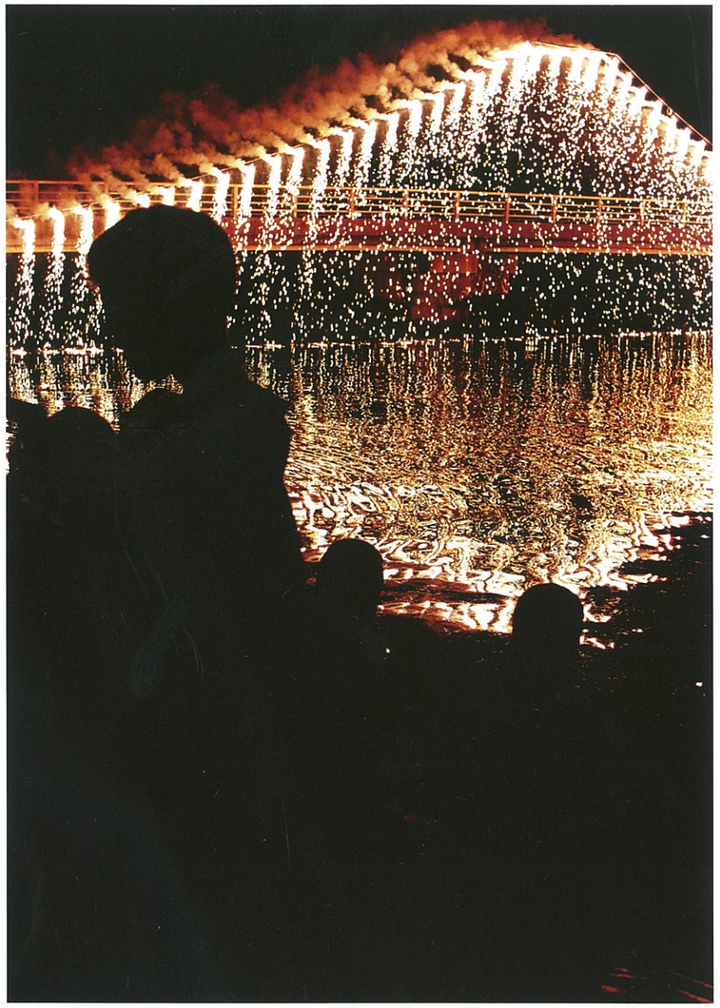
美術部門　佳作
「みくりが池」髙森　美帆（富山北部高等学校　1年）
＜おおかみこどもの雨と雪＞　38.0×54.0



美術部門　佳作
「笹津橋」立村　直也（富山高等学校　1年）
＜越中讃歌＞　27.0×39.0



# 写真部門

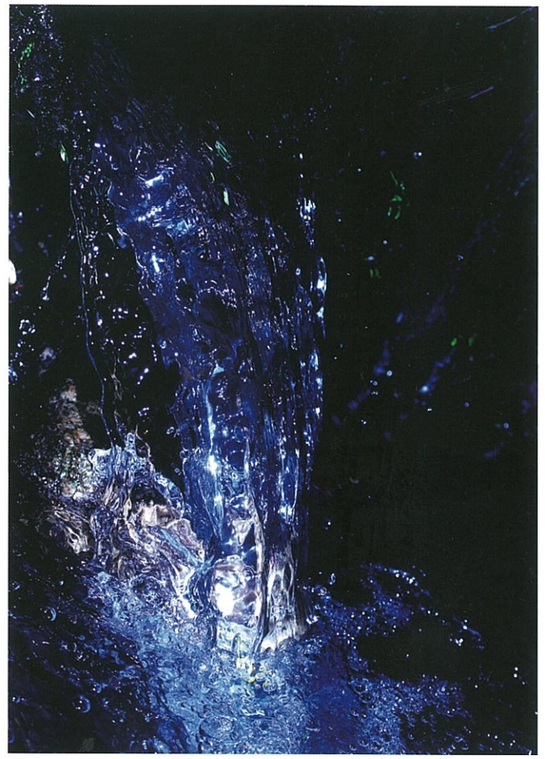


写真部門　知事賞
「光の滝」宮武　由佳（富山東高等学校　2年）
＜花子のくにの歳時記＞　30.5×20.3

**この一冊**

**花子のくにの歳時記**
辺見　じゅん／著　角川春樹事務所
水橋の祖父母のもとで育った著者が、民話の心の足跡をたどる。各地で民話の語り手と出会い、四季の美しさ、人間の営みを温かく描き出すエッセイ集。

【凡例】部門名
題名／名前（学校名・学年）
＜　＞は原作　サイズ（タテ×ヨコ）cm



写真部門　金賞
「流れ」古川　泰希（富山東高等学校　２年）
＜瀑流＞　３０．５×２０．３

**この一冊**

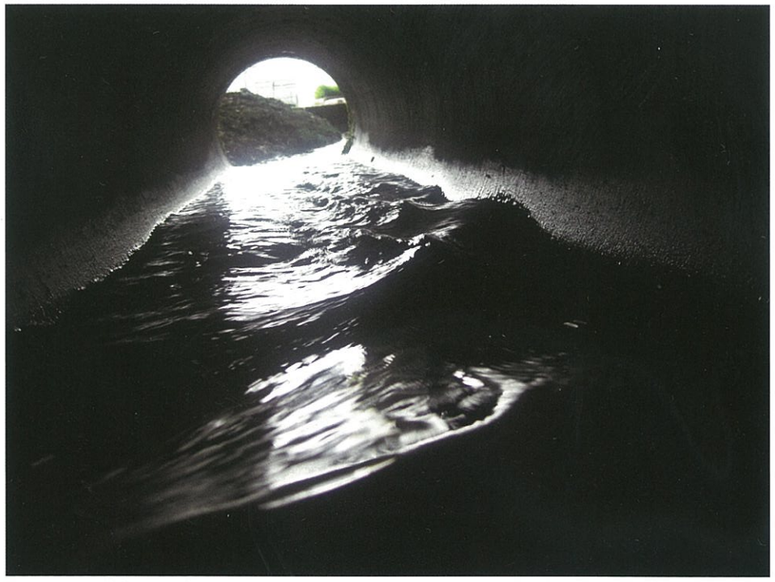
**瀑流**
山田　和／著　文藝春秋刊
昭和初期、国を二分して闘われた庄川ダム争議事件を舞台に、進歩と自然の調和とは何かを問いかけたノンフィクションノベル。

写真部門　銀賞
「合掌の里」島　彩香（高岡第一高等学校　１年）
＜街道をゆく４＞　２０．３×３０．５

**この一冊**

**街道をゆく４**
司馬　遼太郎／著　朝日文芸文庫
白川郷、五箇山を北上し、富山に向かう筆者が、自然の姿や人情の機微に感動し、赤尾道宗の生き方等に思索を深めていきます。





写真部門　銀賞
「出口」稲垣　ゆりあ（南砺福野高等学校　１年）
＜とやま面白学・富山の自然再発見＞　２５．４×３６．６

**この一冊**

**とやま面白学・富山の自然再発見**
とやま面白学企画編集会議／著　北日本新聞社
富山県民には当たり前でも、実は世界的に珍しい現象、身近な自然の謎が解き明かされます。植物、動物、地学、気象編など、各分野について第一線の学芸員、研究員が解説しています。

写真部門　銀賞
「夏を惜しんで」堂田　千晴（高岡第一高等学校　１年）
＜街道をゆく４＞　２０．３×３０．５

写真部門　銅賞
「露のしずく」杉木　里帆（南砺福野高等学校　1年）
<越中の伝説>　２５.４×３６.６

**この一冊**

**越中の伝説**
石崎　直義／著　第一法規出版
富山に伝わる多くの伝説の中から、県民性、風土性、歴史が分かる一六〇話が集録されています。

写真部門　銅賞
「広がる笑顔」橋爪　嘉那（富山東高等学校　2年）
<チンドン>　２５.４×３６.６

**この一冊**

**チンドン**
大場　ひろみ／著　バジリコ
鉦の音とクラリネットを響かせる町の大道宣伝楽隊チンドン屋の生活とその現代史を、貴重な証言と資料で編んだ労作ノンフィクション。

写真部門　銅賞
「魚津の祭り」大崎　栞
（富山東高等学校　1年）
<魚津だより>　３０.５×２０.３

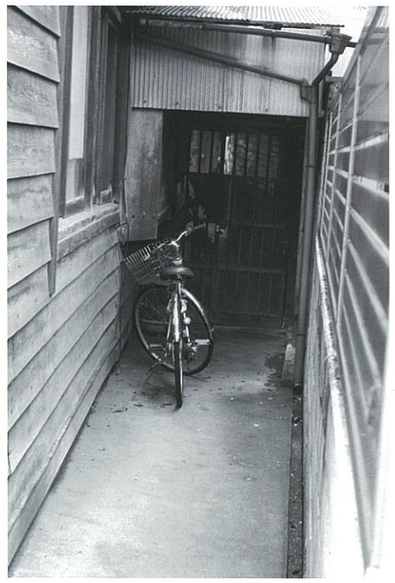
**この一冊**

**魚津だより**
池田　弥三郎／著　毎日新聞社
銀座に育った生粋の江戸っ子の教授が魚津に住み、日本海の文化について考え、新しい視点から富山を描いた随筆集。筆者の遺作でもある。

写真部門　銅賞
「大木の並木道」森田　彩里紗
（南砺福野高等学校　2年）
<山へ入って草を刈ろう>　３６.６×２５.４

**この一冊**

**山へ入って草を刈ろう**
足立原　貫／著　朝日新聞社
除草剤散布に反対する国内外の若者たちが、自分たちで富山の造林地の下草刈りを始める苦難と感動の物語。



写真部門　銅賞
「廃れた路地」丸田　稜介
（富山東高等学校　1年）
<風のまにまに>　３０.５×２０.３

**この一冊**

**風のまにまに**
岩倉　政治／著　富山新聞社
福井の吉崎から始まった蓮如の越中の旅。この跡をたずねた二人遍路の独特な絵とユーモラスな文による旅の足跡。富山新聞に連載されました。

# 平成 24 年度「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品一覧表

## ○文芸部門
### （散文・詩）

| 賞 | 題　名 | 分野 | 学　校 | 学年 | 名　前 | 題　材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 知事賞 | みぞれ | 詩 | 魚津高等学校 | 1年 | 上原　美穂 | 納棺夫日記 |
| 金　賞 | 終戦六十七年目をむかえて | 散文 | 魚津高等学校 | 1年 | 竹本　奈々子 | 男たちの大和 |
| 銀　賞 | 私のマイブーム | 散文 | 富山市立堀川中学校 | 2年 | 緒方　結花 | 万葉集 |
| | 光の想い | 詩 | 富山市立堀川中学校 | 3年 | 井波　晴香 | 螢川 |
| | たしかなもの | 詩 | 富山高等学校 | 1年 | 高橋　侑花 | ルメイ・最後の空襲 |
| 銅　賞 | 万代まで伝わる書 | 散文 | 富山高等学校 | 1年 | 森田　晴香 | 万葉集 |
| | 富山県から提唱する科学の平和利用 | 散文 | 雄峰高等学校 | 3年 | 福井　遼 | ノーベル化学賞「田中耕一さん」の研究 |
| | 挑み | 詩 | 魚津高等学校 | 1年 | 小林　萌葉 | 劔岳＜点の記＞ |
| | 寒い日のこと | 詩 | 魚津高等学校 | 1年 | 谷山　ゆり香 | くろべのツンコぎつね |
| | 試練の山 | 詩 | 富山高等学校 | 1年 | 碓井　美月 | 劔岳＜点の記＞ |

### （短歌・俳句）

| 賞 | 題　名 | 分野 | 学　校 | 学年 | 名　前 | 題　材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 金　賞 | 富山今昔 | 短歌 | 富山大学人間発達科学部附属中学校 | 2年 | 八木　仁志 | 螢川 |
| 銀　賞 | いにしえの舟唄 | 短歌 | 高岡市立伏木中学校 | 2年 | 上勢　紗矢子 | 万葉集 |
| | 妖光 | 俳句 | 富山高等学校 | 1年 | 宮田　彬恵 | 螢川 |
| | つる | 俳句 | 魚津高等学校 | 1年 | 細川　七瀬 | ダモイ遥かに |
| 銅　賞 | 富山名物 | 短歌 | 富山高等学校 | 1年 | 高倉　直哉 | ホタルイカの素顔 |
| | 螢川 | 短歌 | 富山高等学校 | 1年 | 木原　美紗樹 | 螢川 |
| | 恋をする家持 | 俳句 | 高岡市立伏木中学校 | 1年 | 浜谷　日和 | 万葉集 |
| | 大空襲 | 俳句 | 魚津高等学校 | 1年 | 近藤　雄真 | ルメイ・最後の空襲 |
| | おおかみこどもの雨と雪 | 俳句 | 富山市立堀川中学校 | 1年 | 小川　凛久 | おおかみこどもの雨と雪 |

## ○美術部門

| 賞 | 題　名 | 分野 | 学　校 | 学年 | 名　前 | 題　材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 知事賞 | 絶体絶命 | 絵画 | 小杉高等学校 | 2年 | 堀　圭太 | 劔岳＜点の記＞ |
| 金　賞 | 剣岳 | 絵画 | 富山高等学校 | 2年 | 由水　誠一 | 山案内人　宇治長次郎 |
| 銀　賞 | 魚津埋没林 | 絵画 | 富山北部高等学校 | 1年 | 竹田　彩香 | 風鳥 |
| | 包み込む立山 | 絵画 | 富山北部高等学校 | 1年 | 廣田　紬 | RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ |
| | 高岡の大仏 | デザイン | 富山北部高等学校 | 1年 | 木村　夏希 | 谷間の女たち |
| 銅　賞 | せりこみ蝶六 | 絵画 | 富山北部高等学校 | 1年 | 石川　莉夏子 | 認知症の「こころ」を生かす明るい介護 |
| | 光る夏 | 絵画 | 小杉高等学校 | 2年 | 中越　葉月 | とべないホタル |
| | 夜明け前の立山 | 絵画 | 富山北部高等学校 | 1年 | 毛利　優花 | 劔岳＜点の記＞ |
| | おわら風の盆 | デザイン | 富山北部高等学校 | 1年 | 前田　健登 | 風の盆幻想 |
| | かわらないおいしさ | デザイン | 富山北部高等学校 | 1年 | 江連　秋 | 越中讃歌 |
| 佳　作 | 笹津橋 | 絵画 | 富山高等学校 | 1年 | 立村　直也 | 越中讃歌 |
| | みくりが池 | 絵画 | 富山北部高等学校 | 1年 | 髙森　美帆 | おおかみこどもの雨と雪 |

## ○写真部門

| 賞 | 題　名 | 分野 | 学　校 | 学年 | 名　前 | 題　材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 知事賞 | 光の滝 | 単写真 | 富山東高等学校 | 2年 | 宮武　由佳 | 花子のくにの歳時記 |
| 金　賞 | 流れ | 単写真 | 富山東高等学校 | 2年 | 古川　泰希 | 瀑流 |
| 銀　賞 | 合掌の里 | 単写真 | 高岡第一高等学校 | 1年 | 島　彩香 | 街道をゆく４ |
| | 出口 | 単写真 | 南砺福野高等学校 | 1年 | 稲垣　ゆりあ | とやま面白学・富山の自然再発見 |
| | 夏を惜しんで | 単写真 | 高岡第一高等学校 | 1年 | 堂田　千晴 | 街道をゆく４ |
| 銅　賞 | 露のしずく | 単写真 | 南砺福野高等学校 | 1年 | 杉木　里帆 | 越中の伝説 |
| | 広がる笑顔 | 組写真 | 富山東高等学校 | 2年 | 橋爪　嘉那 | チンドン |
| | 魚津の祭り | 単写真 | 富山東高等学校 | 1年 | 大崎　栞 | 魚津だより |
| | 大木の並木道 | 単写真 | 南砺福野高等学校 | 2年 | 森田　彩里紗 | 山へ入って草を刈ろう |
| | 廃れた路地 | 単写真 | 富山東高等学校 | 1年 | 丸田　稜介 | 風のまにまに |



# 審　査　委　員　会　委　員

| 委　員　名 | 役　職　等 |
|---|---|
| ＜委員長＞<br>中井　精一 | 富山大学人文学部准教授 |
| 赤川　雅和 | 富山県立図書館長 |
| 柳原　正樹 | 富山県水墨美術館長 |
| 橋本　文良 | 高岡市美術館副館長 |
| 村井　幸喜 | 県中学校文化連盟新聞・文芸専門部代表<br>（氷見市立南部中学校教頭） |
| 吉村　享子 | 県中学校文化連盟美術専門部代表<br>（富山市立芝園中学校教諭） |
| 寺田　允美 | 県高等学校文化連盟文芸専門部<br>（富山国際大学付属高等学校非常勤講師） |
| 山村　泰雄 | 県高等学校文化連盟美術・工芸専門部<br>（高岡高等学校教諭、県高等学校文化連盟事務局長） |
| 梅木　宏真 | 県高等学校文化連盟写真専門部<br>（高岡第一高等学校教諭） |
| 村椿　晃 | 県理事、<br>高志の国文学館副館長・事務局長 |
| 平野　富佐 | 県教育委員会生涯学習・文化財室長 |

# 応　募　状　況

応募総数…1,510 点（文芸 1,426 点、美術 57 点、写真 27 点）

| | 部門 | 文　芸 | | | | | 美　術 | | | 写　真 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 校種 | 散文 | 詩 | 短歌 | 俳句 | 部門計 | デザイン | 絵画 | 部門計 | 単写真 | 組写真 | 部門計 | |
| 応募数 | 高等学校 | 346 | 10 | 181 | 170 | 707 | 6 | 51 | 57 | 26 | 1 | 27 | 791 |
| | 中学校 | 58 | 23 | 174 | 464 | 719 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 719 |
| | 総計 | 404 | 33 | 355 | 634 | 1,426 | 6 | 51 | 57 | 26 | 1 | 27 | 1,510 |
| 入選 | 知事賞 | | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 3 |
| | 金賞 | 1 | | 1（1） | | 2（1） | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 4(1) |
| | 銀賞 | 1（1） | 2（1） | 1（1） | 2 | 6（3） | 1 | 2 | 3 | 3 | | 3 | 12(3) |
| | 銅賞 | 2 | 3 | 2 | 3（2） | 10（2） | 2 | 3 | 5 | 4 | 1 | 5 | 20(2) |
| | 佳作 | | | | | | | 2 | 2 | | | | 2 |
| | 入選計 | 4（1） | 6（1） | 4（2） | 5（2） | 19（6） | 3 | 9 | 12 | 9 | 1 | 10 | 41(6) |

（　）は中学生で内数

## 表　彰　式

石井知事から入賞者39名に賞状と副賞が授与されました。

平成２４年１１月１２日（月）
高志の国文学館

知事賞、金賞、銀賞、銅賞受賞者の皆さん


# 高志の国 文学館

KOSHINOKUNI Museum of Literature

高志の国文学館を訪ねて、きみも作品を創作・コンクールに応募しよう！

高志の国文学館は、富山県ゆかりの作家や作品の魅力を幅広く発信し、誰もが気軽に文学作品や、絵本、映画、漫画、アニメなど幅広い分野の「ふるさと文学」を気軽に楽しみ学ぶことができるとともに、新たな創作への刺激ともなる場でもあります。

| | |
|---|---|
| 開館時間（展示部門） | 午前９時30分から午後５時まで（入館は午後４時30分まで） |
| 休館日 | 火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始 |
| 観覧料 | 常設展示観覧料／一般200円、大学生160円（高校生以下無料） |

詳しくはＨＰ　高志の国文学館　検索

高志の国文学館
KOSHINOKUNI Museum of Literature

所在地
〒930-0095
富山市舟橋南町2-22
TEL 076-431-5492
FAX 076-431-5490




## 入　選　作　品　展　示

### 第17回富山県中学校文化祭
平成24年10月14日（日）
富山県民会館

### 第12回 となみキャンパスフェスティバル
平成24年11月10日（土）～11日（日）
県民カレッジ砺波地区センター、となみ野高校

### 第9回 県民カレッジ高岡地区センター学遊祭
平成24年10月26日（金）～28日（日）
県民カレッジ高岡地区センター

### 高志の国文学館パネル展
平成24年11月23日（金）～12月3日（月）
ふるさと文学の回廊①

### 第12回 新川キャンパスフェスティバル
平成24年10月27日（土）
県民カレッジ新川地区センター